

## 知事と区市町村長との意見交換（町田市）

令和 1 年 10 月 2 日（水）

13 時 40 分～14 時 00 分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○**知事** 御多用の中、石阪市長には都庁まで御足労いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃よりの都政運営の御理解、御協力、誠にありがとうございます。

今、ラグビーで燃えてサモア戦頑張れみたいな、日本中がそんな空気。来年の 2020 年はいよいよ東京大会ということでございます。

その後の東京をどう持続可能な発展、成長を続けるこの首都東京にしていくか、それぞれの地域もそれぞれの長期戦略、長期的にはこうありたい、いろんな御意見があろうかと思えます。今日はその機会とさせていただきますので、短い時間ですがどうぞよろしくお願いいたします。

○**行政部長** 石阪市長、よろしくお願いいたします。

○**町田市長** 知事、今日はどうも、貴重な機会をありがとうございます。町田市として 2040 年に向かって、今、長期計画をつくっている最中ですが、今日はその一環として将来の町田というイメージを少しお伝えをさせていただいて、東京都さんの御支援をいただきたいというように思っております。よろしくお願いいたします。

今、スライドというんでしょうか、見えておりますが、昔から町田は団地のまちというふうに言われております。東京都住宅供給公社さんと UR さん、供給している団地が 2 万 3,000 戸ございます。市内の住宅の 1 割はこの JKK さんと UR さんということで、1 万 8,000 戸は、今 JKK、UR ともに管理している、いわゆる公的賃貸住宅というやつですね、分譲ではなくて。こういう団地の他に、実は都営住宅もかなり町田に立地してまして、これだけでも 8,000 戸あります。そういう意味では、公的賃貸住宅は三多摩で一番多いのが町田なんです。

この人口のスライドを見ていただくと分かるんですが、東京都の人口増の波が 10 数年遅れて、こう上がってくるんですね。そういう意味ではずれているというんですかね。東京への人口集中がずれて多摩地域、とりわけ町田市の方に来ています。

この絵で見ていただきますと赤い所が、いわゆる UR さんと JKK さんの集合住宅、いわゆる団地なんです。当然ですが、東京とか大阪とかに地方から人が集まる。その流れの中で東京都心から少しずれて、年限としては 10 数年ずれて人口急増しています。

高度成長期の労働力人口の受け皿と、はっきり言えばそういう形になっていまして、実はこのエリア、まだ人口の 1 割、つまり 4 万 3,000 人が住んでるところであります。

この団地の人口がもう既に減っているということと、高齢化しています。今高齢化率が 44% ぐらいなっていますね。ですから、半分近くが 65 歳以上人口というふうになりますので、そういう意味では建物の方も 50 年。1970 年から考えても 50 年経ってますから、高齢化と

建物の老朽化。どこも同じですけど、再生というのが課題になってます。

賃貸住宅はほとんど全部エレベーターがありません。5階建て、4階建てですから。ちょっと居住としても高齢化の中では厳しい状況になっているんじゃないかなというふうに思います。ただ、昔の建築ですから、敷地に対して容積と言うんですかね、非常に低いですから、再生する時に非常に余地があるという意味で、再生可能性があるかと。

もう1つは地主さんがJKKさんとURさんだけですから、再生するというのは土地の問題ってというのが、地権者問題というのが特にないわけで、非常に条件としてはいいのかなというふうに思っております。

私どもが、それこそ町田市としては悲願としている多摩都市モノレールの延伸ということが進めば、これが一つのきっかけになって再生ができる、条件がいいということでありますので、町田駅からの多摩都市モノレールあるいは多摩センターからのアクセスがよければ、再生がかなりうまくいくんじゃないか、そんなつもりで考えております。

当然多摩都市モノレールですから、立川とかそっちとの連絡がよくなるというだけではなくて、全体としてコンパクトなまちづくりができるという意味で、非常にモノレールについては期待をしております、特に今計画の構想図ですけども、青い点線で結んでいる所に、小山田桜台団地とそれから木曾山崎団地地区等がメインですが、あそこは通っていますので、ここの地域の再生って非常にこのモノレールは有効だというふうに思います。

選手村の絵がないんですけど、選手村が大体この木曾山崎団地の真ん中の赤い所で、3つ入るぐらいのサイズです、この団地は。選手村も非常に大きな5,000戸以上と。あのサイズがちょうど選手村のサイズです。あれ3つぐらい入るエリアですから、相当な大きなポテンシャルを持つてる所なんだというふうに思います。

この後、どういうふうに再生するかは、例えば小山田桜台ではもう既に話し合いをしますので、そういう意味ではそこを中心に再生の中身を今やっているというところであります。

多摩都市モノレールの延伸ということで、こういう再生を促進するキーワード、団地再生と多摩モノレールの延伸はセットでものを考えているということでございます。

URさんとも、それからJKKさんとも既に協定の話を進めていまして、URさんとは3月にそのモノレールによる開発を、一緒に協力してやりましょうという協定を既に締結してまます。それから小田急電鉄さんとも協定をします。JKKさんはまだできてないですが、近々その協定を結ぼうということで、モノレール延伸と団地再生ということで3社と協定をするという形で、今団地再生を進めております。

もう1つ、いわゆる導入路線って、道路の整備が当然必要なわけですが、これは近々は都市整備局、その先は建設局の仕事になるんですが、道路整備を私どもは加速化プロジェクトという名前を付けてまして、導入空間を確保しようということで、今町田市に市民病院があるのですが、そこから芹ヶ谷公園へ行くまでの2キロの間、大体200軒ぐらいの、10メートルに1軒ということになるんですが、200軒ぐらいの物件が、支障になる所がありますので、そこを何とかしなきゃいけない。2年、3年で片付くような量ではないわけで、

我々としては東京都に事業認可を待たずに先行しよう、先行取得しようというのが、この加速化プロジェクトという名前の本当の意味であります。

当然ですが東京都の事業ですから、東京都の事業認可を得て仕事始まった時には、町田市が先行取得した土地を買っていただくと。こういうやり方してまして、昨日10月1日ですけど、地権者の方と契約をしました。都立の町田高校という高校があるんですが、高校の北側の土地を1,000平米ぐらい、約2億円で、つまり平米20万円ということになるんですかね。2億で昨日買いました、昨日契約したばかりでありまして、今日の知事とのお話間に合いましたけど、この先もその路線の中の物件を買って行って、将来事業認可の時には、もう既に先行で取れてるという状態をつくって加速しようという、そういうプロジェクトであります。

地方創生とか、いろいろもう大分前からやっていますが、町田市もその縮小版というんですかね。東京23区に対しては労働力の受け皿として回ってきてるわけですから、その地方再生と同じような縮図というんですか。この町田地域を再生をしていって発展をさせるというのが、東京全体の発展に繋がるんじゃないかなというふうに思っております。

先ほども申しました、悲願の多摩都市モノレール、1日も早くやりたいということで、身を持って進めさせていただいております。よろしくお願ひします。ありがとうございます。

**○知事** いくつかの大きなポイントとして住宅、そして交通、道路ということだと思います。今、まさしく長期戦略、年末までにビジョンを策定いたしますけれども、その大きな課題として、やはり住宅をどうするか、人口構成が今後どうなるのか、それから家族が、1世帯というのは随分現実が変わってきております。それらを入れ込んで、今後どうするかというのは、今お話のありました公共住宅等も老朽化しているということ。住む方々の高齢化と建物の老朽化というのが両方始まっている、今後さらに加速するという認識の下で考えていかなければならないポイントだと思います。

こうした大規模団地ですが、地域の資源として将来世代に継承していくことが極めて重要でございますし、また、団地の立地や地域のニーズを踏まえた建て替え、それから改修、これらを進めまして、都市づくりと一体となって再生する必要があると、このように考えています。

それから都営住宅も幾つあるとおっしゃいましたか。JJKで全8団地で9,800戸。都営住宅は45団地で計8,000戸ということで、町田はまさしくこの団地のまちと、団地の町田。ウケを狙って言ったわけでは決してございません。まさしくその中で、団地の在り方を問う一番大きな要素を持っておられるだろうと思います。

市長のお考えについては拝聴させていただきました。今後ともJJK、URとも連携しながら、地域の特性に応じた団地再生が進むように取り組んでいきたいと思ひます。

それから多摩都市モノレールの町田方面への延伸でございます。この本路線の実現で開業区間と一体となって、南北方向の拠点が結ばれるということ。それから多摩地域の活力、魅力がさらに向上するということから、6路線として多摩都市モノレールが入っているわけでございます。

今、連絡調整会議の場も活用いたしまして、この導入空間、それから重要な収支の採算性ですね。この確保についても検討を進めておりますし、また引き続き関係機関との協議や調整も進めていきたいと思っております。交通インフラの充実、強化に取り組んでいきたいと思っております。

今の市民の構成も高齢化をするということは、これまで毎日通っていた会社との行き来が変わってくるということもあります。

一方で、高齢者の自動車事故の問題等もこれあり、この自主返納の場合、それから後付けでそういう機械があったり、自動車そのものがサポカーになっていたりということもありますけど、この市民の足をどう確保するかということも、健康に影響もする等、かなりいろいろと総合的に考えていかなければならない課題だと思っております。

今日の市長のお話を、また参考にさせていただきますまして、長期戦略のビジョン策定ということにも活かしていきたいと思っております。

**○町田市長** 1つ付け加えますと、今の多摩地域全体の一体化というのも多摩都市モノレールの1つの私達の仕事としてやっているんですが、もう1つは高齢者の移動の権利、権利というのは妙な言い方ですが、高齢者が移動できるということは、今知事がおっしゃったように健康の維持とか、出掛けるとか、非常に大事なところなんです。

私どもは今回の計画はモノレールと、実は中心の駅をいくつか決めて、そこにコミュニティバスを繋げるという、つまりバスからモノレールに乗り換えて、それから町田なら町田に買い物に出てもらおう、多摩センターに出てもらおうという考え方です。

高齢者が移動できるのは非常に大事な権利だと、権利って言って余りうけないんですけど、権利と言うと市民には。ただ、私自身は高齢者にとって自由に移動できることが権利だと思っております、それが健康の維持だとか、まちの活性化に繋がる。モノレールは非常に大事な、そういう意味では駅間も短いですから、非常に大事な装置だなというふうに思っております、言っても票にはならないんですけど、高齢者の移動の権利というか、そういうことを大事に思ってこの仕事を進めているつもりではあります。

なかなかまちに出るといのは大変なんですけど、今お話の車を使わなくてもモノレールの駅、近くで住んでればモノレールダイレクト、ちょっと遠ければハブのバスのステーション。今、桜美林大学の横に駅をつくって、そこにバス交通を集中させるということで、今、神奈川中央交通と交渉して、その計画でやっています。

今走っているこの路線の半分はモノレールに置き換えるということでやらせてあります。神奈川中央としてもバスが減るといのは、新しい交通体系をつくるんだってことで、非常に前向きにこのモノレールは受け止めていただいておりますので、路線数が半分になるっていうことでも一生懸命やらせていただくと。

コミュニティバスに代替えするということもあるんですけど、そういう体系を切り替えようという時期にきてる。それは10年とか15年先になりますけど、そんな交通体系が福祉的というか、高齢者向きの体系をつくるということも、この多摩都市モノレールの計画の1つの目的としてあります。

○知事 それと移動の権利というのかどうかはあれですが、高齢者が元気で長生きと、長寿というのも今回長期戦略の中のキーワードとして、コミュニティとチルドレンと長寿って、長寿を国際語にしようと思っているんです。そういう中で元気で長生きということのためには、鍵は「きょういく」だっていうんです。また勉強ですかっていうのではなくて、今日行く所があるという「きょういく」だって。やはりどこか行く所がないとっていうので、もちろんそういうハードの面とソフトをうまく組み合わせて、皆でお出掛け、団地内でもそうだし、市のその他の地域で行われるイベントとか、そういうのを総合的に進めていく必要があるんだろうなと思って、今日はちょっと「今日、行く」ということで覚えて。

またいろいろな御要望やビジョンについてシェアしていきたいと思います。どうもありがとうございました。

○行政部長 そろそろお時間になりますので、今日は意見交換を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。